

郡山市立郡山幼稚園の

自然物應用手技に就て

氏 原 銀

此記事は、福島縣郡山市私立郡山幼稚園の松山政治氏より、今度同園の自然物應用手技の細目を編製せられしを贈られしもの、之れを見るに其配當排列のよく殊に其緒言に自然物の意義并に、保育者の用意等に付周到なる注意を述べられたる事、保育上大に參考となるものあり、依て、之れを本誌上に轉載の事を松山氏に請ふに、謙遜せられて容易に之れを旨んぜられざりしも、強て御許るしを得て茲に差出す事とす。

自然物應用手技に就て

一、「自然と一致することは子供の榮譽である」とスタンレーホールはいつたが至言である。豊富なる本能生活を營む幼児時代に、活動場所として悠大なる自然界を與へることは、彼等にとつて此上もない幸福である。

一、花開き鳥歌ふ春 緑鮮かにしたたる夏 燃ゆるばかりに紅葉する秋 根幹の樹立する冬木立の春夏秋冬を通して、子供を園外に連れ立ち、自然に親しましめ、自然の趣味を味はしめ、自然を友とせしむる保育の、如何に賢くして如何に裨益

多きことであらふぞ。

一、自然界の恩恵に浴して、幼児の心身を自然的に發育せしめ、幼児の性情を自然的に涵養せしむることは、實に子供の本能に一致したる方法である。これぞ一種の自然恩物法とも言ふべきものであらふ。かうした方法を計劃する人こそスタンレーホルの『榮譽ある教育者』といはねばならぬ。

一、由來我國の自然界は、世界の樂園とも稱せらるるだけあつて、山川草木悉く美麗にして優雅である。幼児教育者の正に師としてつかふるに適して居る。よろしく之れに近づき、須らく之れに親しむべきであらふ。何を苦しんでか、人工的な文化に局限せられ、狹隘なる園舎に閉ぢ籠もり、技工的なる保育に毀頭し、高價なる器具に安心し、虚飾せる玩具に満足して居るのであらふか。

一、幼児教育者は子供を驅つて自然の天地に遊

ばせしめ、自然の風物に接せしめ、自然と融合するだけの交渉を持たねばならぬ。よしんば其すべてを取り入れる事が叶はずとも、せめては此自然物を配して、子供の師友とし、子供の遊び相手とする事に心がけねばなるまい。

一、先哲は『凡てを子供に學べ』といつて居る。之れ亦味ふべき言である。一度自然物を子供の前に提供して見よ。彼等が持つ想像生活は、極めて自由に而かも無限に次々と展開して、彼は愛する自然と親しみ適したる自然と近付き、いとも巧みに之れを使ひ、喜んで之れを弄び往々にして奇想天外より下るの觀を持たしめ、大人の我々をして感嘆せしむる事甚だ多いのではないか。

一、子供の自然的なる本能は、好んで高きに登らんと企てる。之れに適應せしめんが爲めに我々は「滑り臺」を作つたので有る。我々の目をかすめても樹木によぢらんとあせつて居る此本能を捕

へて「榎登り」を我々は與へて居るではないか、其本能に即し其心理を捉へて、自然物を彼等の師生とし彼等の友として提供するものが即ち自然恩物であらねばならぬ。

一、我等の幼時を追懐して見るがよい。一本の草、一塊の土くれ、又缺けたる貝殻、ありふれたる小石、皆悉く我等の友であつたのだ。或は時に笛となり、或は時に團子と化し、或は皿として用ひられ、或は小錢として使はれたのである。斯の如く一切の自然物は我等の友であり我等の師であり、又我等の寶であつたのである。

一、かかる追懐より、自然的恩物は發見されるに至つたのである。而かも其發見の中より愕然として起る、其恩物を分類し、其友とすべき方法を探究し、更に幾多の考案をめぐらし、重ねて之れを我保育上に活用せしめ、幼兒の手技の一として改めて我等に提供してくれた人がある。それは大

阪保育界の古老、膳眞規先生であつた。余は先生の實際を知り、先生の抱負を求めて今更ながら先生の卑見の偉大なるに敬服せざるを得なかつたのである。

一、自然物を手技とする事は誠によい發見であり、實に尊い仕業であつた。如何に素朴な自然物でも、天真な子供に其儘任せておく時は、或は單調に陥り易く、或は遊びに飽かれて仕舞ふであらふ。茲に於て豊富なる思考力を以て之を捕捉し、之を調節し、或は之を整頓して更に一段の變化を持たしむる事が必要の事と存ずる。之等の衝に當つて變化の妙を保つべきは保母の任務ではあるまいか。これ却て子供を喜ばしめ、子供を満足せしめ、子供を開發して行く所以である。

一、我が幼稚園 一度膳先生の高説に敬服するや、先生の考案に則り之を實現せんと希望せし事多年であつたが、元來の魯鈍、不敏容易に手を下

すの機會なく、荏苒今日に及んで居たが、期漸く熟し未熟ながらも此細目を編むに至つたのである。

一、子供の潤澤なる自然に對する感情と保姆の緻密なる研究的の努力とは相交錯し、次から次へと自然物遊びの種類も擴大するものであり、又其方法も整理して行かねばならぬものである。今は只概括的に之を季節に分類し之を精粗の順に追ふて排列して行つただけのものである。

一、幾分大人の巧利的な考案が、交錯して居るかも知れぬ。此計畫に發心してから日尙淺いのであるから、一々實際に適用して見る機會に到着して居ない。之れが爲めに或は往々机上の空論に墮して居る點がないでもない。併しそこは追々に完成せしむる事を覺悟し、今暫く此儘にして我慢しておく。

一、自然物應用の手技即ち自然的恩物を實施す

る爲めには、度々園外保育を行ふ必要がある。今迄區畫され、局限せられたる狹隘なる園舎よりぬけ出て彼悠大なる自然界を我保育室とする覺悟がなくてはならぬ。雷に安閑として事なきをのみ希ひ、立案的なる方法にのみ閉ぢこもつて消極的思索に陥る事は大の禁物であらふ。

一、足一度園外に出て、開濶なる自然界に親しまんか、言はず語らずの間に日光浴の恩恵にひたられる、幼兒の健康は之によりて増進を期せられ幼兒の智能は之によつて發達を遂げらるのである。世間恐らくかくも安價にして而かも便宜なる遊びの、又とあらふかと思はるる。

されど幼兒を門外に連れ出す事は、其監督の上に將た其指導の上に容易ならぬ事である。細密なる注意と多大なる努力とを要すべき事は當然である。而かも一旦採取し、蒐集した自然物の處置に付ては、保姆は崇敬なる念慮を以て之れを取扱ひ

或は各方面に活用し、或は永久に貯藏し置き、隨時隨所に役立たせるだけの、設備と用意とを怠つてはならぬのである。

一、各保母は多方面から湧出する幼兒の疑問を満足に解決するだけの豊富なる理科的智識を抱持する必要があり又奔放自在の無制限なる自然界から惹起する幾多の危険を、安全に防遏するだけの周到なる保護的注意を打拂ふ覺悟が要る。斯の如き研究と監督とは、我々保母にとつて此上もない修養上の好題材で、願つても當つて見るべき喜ぶべき事實と言はねばならぬ。

一、其野外で採取したる物を、各自の室内に持ち歸りては、一々整理して貼紙や、摺紙、又は切紙等と配合せしめ時に或は描き方とも組合せて、各種製作に使用せしむるのである。而かも各種の苔類や、小さき植物などと配合せしめて盆景や箱庭などを作る時には、應用極めて自由に、多

方面なる製作をなさしむる事が出来る。悠大なる自然を簡楚なる室内に再現する事は、彼等にとつて大なる喜びであり、限りなき興味をそそる次第で有る。

一、時に或は小さき草若き木の葉又美しき花などを配して、額面に押し當て、さまざまなる風景や想像畫などを押畫的に現出せしむる時は、生氣潑瀾たる變化に富んだ額面が出来る。之れを掲げて室内の裝飾に供する事に、彼等に取つて大なる誇りであり、限りなき喜悅を呼ぶ次第ある。

一、押繪にした額面内の植物等は、時が過ぐると色彩が變化し生氣が耗失して、殘骸を晒すの感か生じて來るから、保母餘儀なく度々之れを取換へねばならなくなる。斯く度々取換へる事が、一面室内に大なる變化を與へる所以で、保母の創意に一層の工夫を要する譯である。此煩瑣なる手數と多大なる努力と、又自由なる創意とは、一面興

味湧出の上に、思考練磨の上に甚だ偉大なる効果を奏して居るのである。

一、概して自然物應用の手技は、平面的なるものよりは、立體的に多く用ひらるのであるから又一法之れを粘土製作に取り組んで應用する時は、其妙味一段と深いものがある。

一、之れを要するに自然物應用の手技に對しては、保姆は特別なる趣味と、不斷なる努力と、熱心なる研究とによつてかからねばならぬ。決して氣まぐれのな、一時の流行氣分で着手してはならない。永遠的なる、繼續的なる、高大なる理想を以て取扱ふだけの勇氣がなければならぬ。(昭和五・一〇・一・松山生記)

自然物應用手技細目表

第一學期

材料製作摘要

櫻の花 花はつなぎて人形や人の頭を作る。

たんぼゝの花 花にてかんざし、筆、花束、勳章を莖にて水草等。

すみれ 花にてお相模をとらする。

筍とその皮 筍にて水桶、柄杓等皮にて傘、提灯、立雛を。

土筆又はすぎな つぎ目の當てくら。

おぼば、こ 葉はほゞつき代りに、花莖は機械又はギーコバツコ。

藤の葉柄と實 葉柄にて龜の子草履籠類を編み實は刀に。

笹の葉 船となり笛となり、まゝ事のちまきとする。

柘榴の花 糸にてつなぎ又は柄杓。

椿の葉 秤の皿その他いろゝ。

ぎぼし ぼゞつき、手毬、人形の頭など。

藤豆と鶏頭 鶏やその他の鳥類。

蓮の葉、芋の葉 お面となり水玉ころがし。

クローバーの花 つなぎて首輪その他いろゝ。

第二學期

ぼゞつき 人形の頭に、水に浮べて船に。

蛇の鬚 葉は組みて章履を實は蹴毬にす。

西瓜の皮 お面や提灯を作る。

胡瓜 お馬にも、犬にも、ポットにも。

茄子 豚、鯨、提灯等を作る。

唐黍 皮や穂もて人形等を。

朝顔の花 酸をかけて花の變色、落音機に擬し、鐵砲の類。

栗、どんぐり 平たいものにてしゃもち、人形、つないで冠に。
からたちの實 毬の代りに。

柿の實や種子と 葉と松葉にて虫籠、人形の着物、柿の實の車、
その葉 種子にておはじき、又排べ方に。

桔 芒 人形の細帯、鼻製作。

青桐の葉 蟬、魚類、お舟を作る。

銀杏の葉 編笠、扇、べんぐ、大鼓を作る。

葉 蘭籠や手提カバンを。

山吹の芯 彩色してかせを作り、小さく切つてまゝ事遊び
に顔にねばしてヒーローのまねをなす。

菊の花 花をむしりて模様貼り付ける。

第三學期

赤 燕 人形を作る。

麥 稗 麥藁細工の各種籠や、いろ／＼の模様。

猫 柳 つなぎ方に用ひ、鼠を作る。

芋 芋列を作り、いろ／＼に切りて遊ぶ。

松の葉 用途きわめて多し、魚、とんぼ、舟、烏帽子、
葺、扇、鉄箆。

金 柑 人形の顔に、又こまとして回す。

密 柑 實はく／＼り猿に皮は籠に、押しては土瓶ひきに
して遊ぶ。

